

BBLウェビナー コメント資料

2023年3月29日

DXの思考法とスタートアップ：
「DXの思考法」セミナーシリーズ総集編

東京大学未来ビジョン研究センター客員教授/
元経済産業省商務情報政策局長
西山 圭太

- テクノロジー(Web3...)の話をしているが、それはビジネスのあり方の変化と分かち難く結びついている
- サイエンス自体のあり方も変わろうとしている
- もちろん制度や霞ヶ関のあり方も

- 通商白書2004に「地域通貨」の話を少し書いた
 - 分散型だがいわゆる「市場」とは少し違う
 - 競争軸自体の多様化、非一面化ということを書いたかった
 - 白書を踏まえてOECDに委託したプロジェクトは「統合報告」(つまり企業の多面的評価)の起源の一つになった
- ニューメレールが「通貨」だからそれ自体の多様化に関心があったが、もっとずっと広がりのあることが起こったと言える
 - 価格以外のデータも濃密にやり取りし活用できる(→それが可能になった)

最近読んでます・・・

ハーバート・サイモン(1916-2001、ノーベル経済学賞とチューリング賞を受賞した)

- 複雑なシステムには共通点がある ⇨ “Architecture of Complexity”と呼んだ
- 複雑なシステムには生命体だけではなく、企業や社会も含まれる
- ちなみにその共通点の一つがレイヤー構造(彼は階層構造という)である
- そのアーキテクチャをコンピュータとAIが体現している

メッセージ

- 正しく考えていけば、あなたのやっていることにはきっと深い意味が生まれる
 - それが決定的な変化の時代を生きるということだろう
 - 深さには広さも伴う
 - 一見曖昧な表現は多様なシステムに共通する事柄についての厳密な表現である(J.H.Holland)
 - (目の前のことではなく)そちらから考えることが政策やビジネスのヒントにもなるはず

- 政策形成もスタートアップもトランスフォーマーである
 - ヘーゲル「具体的普遍」
 - 「一つの最適解に向かう道」では必ずしもない(つまり多様性と両立する)
 - 「〇〇を超える〇〇」

- 不思議なものを理解可能にする、かつ不思議さを壊さない。
- それを説明すると、単純なものから複雑なものが出る別の不思議と出会う。
(最近気に入っているサイモンの言葉の要約)